令和７年度

第２３回島根県民文化祭文芸公募作品　入賞者

＜一般の部＞

種目	賞	作者名	住　所
短歌	知事賞	山崎　愛里	松江市（開星高校）
	金賞	今岡　仁子	出雲市
	銀賞	三代　由紀子	松江市
		長崎　未来	松江市（開星高校）
	銅賞	内田　厚子	松江市
		沖田　稔子	江津市
		石橋　由岐子	邑南町
俳句	知事賞	岩本　ひろこ	出雲市
	金賞	静江	益田市
	銀賞	池田　いさ子	出雲市
		石川　邦子	益田市
	銅賞	小川　恵女	雲南市
		塩毛　千介	大田市
		長棟　千代子	雲南市
川柳	知事賞	新井　千尋	松江市
	金賞	原　啓二	出雲市
	銀賞	山田　幸子	松江市
		塩毛　千介	大田市
	銅賞	小猫	雲南市
		花手　陽子	江津市
		若槻　俊山	出雲市
詩	知事賞	恩田　珠三子	松江市
	金賞	彩子	出雲市
	銀賞	熱田　俊月	雲南市
		小林　延子	雲南市
	銅賞	横木　早苗	雲南市
		田中　蒼空	浜田市
		徒花	松江市
散文	知事賞	山田　晃瑚	邑南町
	金賞	氷堂　出雲	出雲市
	銀賞	森本　直知	出雲市
		山田　敏子	出雲市
	銅賞	森岡　佑介	松江市
		餅田　美代子	江津市
		塩田　直也	出雲市

令和７年度

第２３回島根県民文化祭文芸公募作品　入賞者

＜ジュニアの部＞

種目	賞	作者名	学校・学年
短歌	大　賞	中　野　瑞　基	出雲市立向陽中学校・2年
	優秀賞	石　川　夢　希	益田市立高津中学校・2年
	優秀賞	吉　崎　菜　々	津和野町立日原中学校・2年
	優秀賞	恩　田　歩　佳	開星中学校・2年
俳句	大　賞	大　下　優	松江市立第一中学校・3年
	優秀賞	菊　田　皇　成	浜田市立金城中学校・3年
	優秀賞	林　倖　菜	江津市立青陵中学校・3年
	優秀賞	山　本　驍	益田市立高津中学校・3年
川柳	大　賞	藤　原　彗　理	松江市立法吉小学校・6年
	優秀賞	小　村　美　緒	松江市立古志原小学校・5年
	優秀賞	安　原　那　将	江津市立桜江小学校・2年
	優秀賞	植　田　絆　生	江津市立桜江小学校・5年
詩	大　賞	三　宅　穂　波	江津市立青陵中学校・3年
	優秀賞	横　田　彩　名	江津市立青陵中学校・1年
	優秀賞	谷　口　颯　杜	江津市立青陵中学校・3年
	優秀賞	中　村　春　弥	飯南町立頓原中学校・1年
散文	大賞	茶　畑　結　菜	江津市立青陵中学校・1年
	優秀賞	三　宅　穂　波	江津市立青陵中学校・3年

第２３回島根県民文化祭文芸作品
一般の部 知事賞及びジュニアの部 大賞　作品と選評

●一般の部　知事賞

【短歌】

夢の先違う道だと知ったから語る未来に少し嘘つく　　山崎　愛里

この歌の「道」はつまり時間のことです。道は〈私〉にとっては未来と同義で、そこには眼前の〈あなた〉が含まれていて欲しいと思う。けれど仮定の話として語る未来に「少し嘘つく」というところ、いわゆる青春という時代の普遍的な切なさが現れて、共感を誘いました。三句目のような、知ることのかなしみが人を大人にするのかもしれません。「観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日（ひとひ）我には一生（ひとよ）」で有名な栗木京子さんの歌に、「春浅き大堰（おほゐ）の水に漕ぎだして三人称にて未来を語る」という一首があります。この系譜に連なる青春の一首だと、まぶしい思いで読みました。

【俳句】

紺絣解けば父の香夜の秋　　岩本　ひろこ

絣、飛白とも書く、父の遺愛の紺絣を解こうとした処仄々と父の香が立ち込め郷愁に駆られた。亡き父を思う心持ちがよく表れている。秋の気配漂う夜の秋の季語と相まってしみじみとした情感が伝わる一句となった。

【川柳】

初孫の帰省に備えスクワット　　新井　千尋

そりゃあ、初めての可愛い孫で、くれぐれも慎重に大切にと、取説にも書いてあり、ばあばは、日夜、スクワット（しゃがんだ姿勢から立ち上がる動作）に只今特訓中‼ハッピーファミリーの日常が窺える作品。

【詩】

『梅酒』　　恩田　珠三子

嫁と姑の関係は傍の者には（夫にも）分からないと言われるが、この作品ではどうであろうか。「家じまい」に際して持ち帰った「姑の遺品」たち。その一つ一つに籠められた思い出を解き明かしながら、女性らしい感性で包み込む表現が巧みです。昨年の入賞作品と連作と思われますが、生の感情を抑えたのが高評価につながりました。

【散文】

『病気が私を育ててくれた』　　山田　晃瑚

突然の病から懸命に回復しようとする努力が胸を打つ。患者同士の交流や、趣味の短歌、郷土の歴史を学ぶなど仲間との輪を拡げ、希望を持って積極的な人生を追求する作品である。

●ジュニアの部　大賞

【短歌】

風を読み信号を読みギアを変え最速で帰る僕は帰宅部　　中野　瑞基

学校から開放され、さあ帰宅するぞという少年の気持ちがよく出ています。自転車で過ぎ去る景色や肌に当たる風までリアルに感じることも出来、何よりリズム感があります。結句の僕は帰宅部は、作者のメッセージとも取れました。

【俳句】

応援の声でかき消す蝉の声　　大下　優

野球の応援か、サッカーの応援か判然としないが応援団のすさまじい声にさしもの蝉時雨の声もかき消される景のよく分かる一句である。同時に全校生徒が一致団結してわが校を応援するという学園生活の素晴らしさも詠まれている。

【川柳】

始業式やる気スイッチ故障中　　藤原　彗理

楽しかった長い夏休みも終わり、宿題もそつなく熟した。ＯＫ ‼ 後は始業式を待つだけだったのに、朝になり急にお腹が痛くなってきた、よくあるパターン。ファイト！もう一度スイッチ入れ直そうよ。

【詩】

『「私が詩をつむぐとき」』　　三宅　穂波

「私はこんなふうにしてこの作品を創りました」ということを正面から書いた作品を初めて読ませて貰いました。普通には散文で書くことを詩でやってしまったのですから驚きです。創作の過程を丁寧に書きながら、詩に対する愛情を感じさせてくれます。最後の２行も作者の優しさと受け止めましょう。

【散文】

『【あなたの隣にずっと】』　　茶畑　結菜

思春期の恋心を素直に、ありのままに表現していて好感がもてる。初恋→再会→失恋→両想いと、主人公の心の動きが読者にすっと入ってくる。「ミヤコワスレ」を花言葉として用いたのも素晴らしい着想である。誰にも思い出のある、初恋を描いた好作品である。